

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／関 祐太

ローカルに居ながら グローバルに戦える人材を育成。 地域を牽引する学校に

龍 澤学館グループは、予備校、高校、幼稚園に続き、学びのニーズや地域の要請に応える形で5つの専門学校を設立してきました。今では、30学科50コースを擁する総合専門学校グループとして、情報ビジネスや医療福祉、法律、行政、ペット、柔道整復・鍼灸など幅広い専門分野をカバーしています。

本グループが特に意識しているのが地域の独自性です。何も東京と盛岡で同じ教育をする必要はありません。地域にある教育資源をいかし、世界に直接出ていくような人材、すなわちローカルに居ながらグローバルに戦える人材を育成したいのです。

今春、岩手銀行と共同でファンドを

設立しベンチャーキャピタルを立ち上げたのもそのため。地元の金融機関と教育機関が連携し人材を育成しようという画期的な取り組みです。このほか地元企業との強固なネットワークによる「企業連携プロジェクト」やキャリア教育など、地域を舞台としたさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。人材の輩出による地域の底上げだけではなく、自ら先頭に立ち、地域を牽引していくことが、龍澤学館グループのこれからの使命だと考えているのです。

私は、今の若い人に大いに期待しています。東日本大震災では多くの学生がボランティア活動に参加しました。瓦礫の撤去に始まり、その後長く続

く仮設住宅における被災者の心のケア、さらには三陸鉄道の駅の改装や、復興支援に関連した商品開発などに献身的に取り組んでいました。資格取得を目指す勉強や就職活動も大変ななか、自分のやるべきことを考え、行動に移した若者は本当に立派であり、頼もしさを感じています。学校としても、釜石市と復興のための連携協定を結び、支援を継続しています。

ボランティア活動に限らず、地域から学べることはたくさんあります。知識や技術はいくらあっても荷物になりません。専門分野に関係がなさそうなことでも貪欲に吸収すること。あまり慎重になりすぎずに挑戦してほしいし、失敗もしてほしい。やり直しは何度でも可能です。その過程で自分に合うものがきつと見つかるでしょう。今まではレールにうまく乗れることが正解であったかもしれませんが、そんなレールなどない時代です。そうしたことを教える側も強く意識する必要があります。教えこむのではなく、共に学び、考えていくスタンスを、これからも大切にしていきたいと思えます。

学校法人龍澤学館 理事長 龍澤正美



【理事長プロフィール】たつざわ まさはる ●1941年生まれ。早稲田大学法学部卒業。龍澤高校(現 盛岡中央高校)教諭、龍澤学館グループ事務局長などを経て94年より現職。全国私学振興会連合会理事、全国経理教育協会監事、岩手県専修学校各種学校連合会会長、岩手県私学振興会代表理事。

【学校法人プロフィール】1953年進学研究会設立。63年龍澤高校(現 盛岡中央高校)開校。87年盛岡情報ビジネス専門学校開校、96年専門学校盛岡カレッジオブビジネス開校、1997年盛岡医療福祉専門学校開校、2005年盛岡公務員法律専門学校および盛岡ペットワールド専門学校開校。16年に専門学校盛岡看護医療大学校開校予定。